

2/19
E. 福

PKO日報一転「全て保管」

南スーダン国連平和維持活動(PKO)派遣部隊の日報問題がくすぶり続けている。いったんは廃棄したしながら、過去の全ての日報が保管されていたことが分かり、野党は防衛省の姿勢を「隠蔽だ」と批判。稲田朋美防衛相への報告遅れというシビリアンコントロール(文民統制)を揺るがす問題も浮上し、後手に回る対応に身内からも不満の声が上がる。

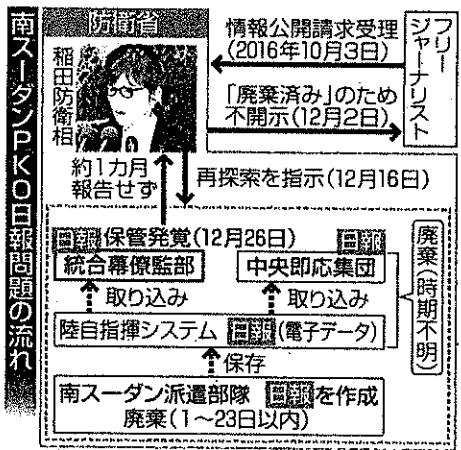
▽不都合な文書
「日報をいつ廃棄したのか」。十七日の衆院予算委員会で民進党議員が稲田氏に迫った。稲田氏は「(現地部隊が)送ると用済みになり、廃棄された」と報告を受けている」と答弁。だが明確な日時を示さなかった。

防衛省によると、現地部隊は日報を作ると、まずは陸上自衛隊の「指揮システム」に電子データとして保存。上級部隊の中央即応集団(CRF、神奈川県の座間駐屯地)の担当者が取り込み、内部向けの「モーニングレポート」を作成後、早い時期に廃棄す

る運用だった。情報公開請求を昨年十月三日付で受理し、現地部隊、CRFで「データは廃棄済み」として十二月二日に不開示を決定。稲田氏の指示で同十六日から再探索し、二十六日に東京・市谷の統合幕僚監部内で見つけた。「請求を受けた段階で陸自に日報がなかったのは事実。探索は不十分だったが、隠す意図はなかった」といのが防衛省の理屈だ。

しかし、野党は納得していない。防衛省の説明もさる「とながら、請求後にデータを廃棄し、組織的に隠蔽を図っ

揺らぐ文民統制



消えぬ組織的隠蔽疑惑

た疑いがある」とみるからだ。請求があったのは次の派遣部隊に「駆け付け警護」などの新任務を付与するか議論が続いていた時期。七月に首都シユバで政府軍と反政府勢力がぶつかり、停戦合意などPKO参加五原則が崩れているとの指摘もあった。「戦闘」の表現を多用した日報は政府には「不都合な文書」だった。民進党はデータの消去日時

南スーダンPKO アフリカ・スーダンの内戦を経て2011年に分離独立した南スーダンの安定と開発支援が目的の国連平和維持活動(PKO)。正式名称は国連南スーダン派遣団(UNMISS)で、現在日本が参加する唯一のPKO。12年1月からインフラ整備を任務とする陸上自衛隊を派遣している。現在は11次隊で第5普通科連隊(青森市)など約350人が首都シユバで活動。安全保障関連法に基づく「駆け付け警護」などの新任務が付与された。12次隊は第5旅団(北海道帯広市)が主力となる。

が分かるパソコン記録の提出を要求したが、防衛省は応じず「派遣部隊は作成から二十三日以内に廃棄した」と説明しただけ。指揮システムのデータが廃棄された時期も履歴が残っており不明と説明を裏付ける証拠を示していない。

▽蚊帳の外
さらなる問題が稲田氏への報告遅れだ。統幕が文書を見つけた後、報告したのは約一月後の一月二十七日。「事実関係は事務方がすぐに報告を上げるべきだった」と本人も認めざるを得なかった。

二月十七日には二〇一二年一月の二次隊以降、全ての日報が統幕の二つの部署で引き継がれていたことを公表。背広組、制服組を問わず多数がその存在に触れながら情報を共有せず、野党の追及で新事

ある防衛省幹部は「大臣への報告遅れも含めて、誰が悪かったんだとみんな疑心暗鬼になっている。これでは現地で活動する隊員がかわいそうだ」とため息をついた。

実が明るみに出る悪循環となっている。

野党は稲田氏が省内を統率できていない現状を、シビリアンコントロールの観点から問題視。民進党の辻元清美衆院議員は稲田氏を「蚊帳の外大臣」と批判した。

▽疑心暗鬼
「部隊にとって一級資料。捨てるなんてあり得ない。当初から自衛隊には「廃棄」の説明を疑問視する声があった。」

「南スーダンPKOはまだ五年。例えば雨期の部隊運用を調べ直そうと思ったり、頼りになるのは過去の日報だ」と幹部の一人。別の幹部は「日報を共有していることは分かっていたはず。持っている誰かが声を上げていけば、こんな問題にならなかった」と話す。